



三月十一日の地震発生に於いて、日本中央研究所の被害は人・モノ・インフラ共に損害は最少となった。特に本社事務所内は大揺れの中に各自が冷静に判断し、倒壊しそうな棚や塗料缶を皆で支え続けた。その結果、塗料・飲料水、キャビンの一部が散乱した程度に済んだ。なお、物流センター野口社長からの報告によると、「製品保管の状況についても被害なし」とのことであった。わたし達は元気でいられることを幸せと思い、被害者の冥福を祈ろう。

当社屋上からすぐ先のテレコムセンターが燃えていた。 間中